

## 新型コロナ禍における自殺者数の状況【令和2年12月暫定値版】

## ■ 自殺者数の状況（警察統計（H31・R1=確定値／R2=暫定値））の月別集計

（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より）

	1月			2月			3月			4月					
	R2	H31	前年比較												
全国	1,680	1,684	-4	1,454	1,615	-161	1,751	1,856	-105	1,504	1,814	-310			
神奈川県	77	75	2	80	94	-14	103	84	19	91	107	-16			
	5月			6月			7月			8月					
	R2	R1	前年比較												
全国	1,585	1,853	-268	1,570	1,640	-70	1,858	1,793	65	1,917	1,603	314			
神奈川県	95	104	-9	91	86	5	115	100	15	113	82	31			
	9月			10月			11月			12月			1～12月計		
	R2	R1	前年比較	R2	R1	前年比較									
全国	1,872	1,662	210	2,199	1,539	660	1,835	1,616	219	1,694	1,494	200	20,919	20,169	750
神奈川県	100	83	17	149	89	60	116	86	30	115	86	29	1,245	1,076	169

## 1 令和2年1～12月の合計（男女計）の前年比較

全国 20,919人（+750人）

本県 1,245人（+169人）

・全国は1～6月までは前年と比較してマイナス。7月から増加に転じ、8月に大幅増、9月も引き続き増、10月は急増、11、12月も一定増。

・本県は1～7月までは、微増微減の繰り返し。8月は大幅増、9月も引き続き増、10月は急増、11、12月も一定増。

## 2 令和2年12月の自殺者数の状況の前年比較

## (1) 総数

・全国 1,694人（+13.4%(+200人)）

（構成割合 ①40代18.5%(314人) ②50代16.5%(280人) ③60代13.6%(231人)）

・本県 115人（+33.7%(+29人)）

（構成割合 ①40代21.7%(25人) ②50代20.9%(24人) ③20代13.0%(15人)）

## (2) 男性

・全国 1,103人（+6.6%(+68人)）

（構成割合 ①40代20.1%(222人) ②50代17.6%(194人) ③60代13.6%(150人)）

・本県 77人（+40.0%(+22人)）

（構成割合 ①40代・50代22.1%(17人) ②60代・70代・80歳以上11.7%(9人) ③30代10.4%(8人)）

※男性は全国に比べて高い割合で増加し、60代（R1 2人⇒R2 9人：4.5倍）、80歳以上（R1 3人⇒R2 9人：3倍）、40代（R1 6人⇒R2 17人：2.8倍）の増加が顕著

### (3) 女性

・全国 591人 (+28.8%(+132人))

(構成割合 ①20代・40代15.6%(92人) ②50代14.6%(86人) ③70代14.2%(84人))

・本県 38人 (+22.6%(+7人))

※増加した7人のうち最も多い年代は20代で6人、次いで40代・50代で各3人

(構成割合 ①20代・40代21.1%(8人) ②50代18.4%(7人) ③70代13.2%(5人))

※女性は全国と同様に一定増の傾向にあるが、中でも20代(R1 2人⇒R2 8人:4倍)の増加が一番多く、次いで50代(R1 4人⇒R2 7人:1.8倍)となっている。

#### [参考]コロナ禍における自殺の動向に関する分析(緊急レポート※中間報告)

厚生労働省大臣指定法人 いのち支える自殺対策推進センター(R2.10.21)参照

##### 【全国の状況・主なポイント】

#### 1 本年の自殺の動向は、例年とは明らかに異なっている。

(自殺者数は近年減少傾向だったが、2020年に入ったあたりから上昇。女性の上昇が顕著)

#### 2 本年4月から6月の自殺者数は、例年よりも減少している。

(社会的危機の最中あるいは直後には人々の死への恐怖や社会的連帯感・帰属感の高まりにより自殺者数減少傾向)

#### 3 様々な年代において、女性の自殺は増加傾向にある。

(7月、8月で「同居人がいる女性」「無職の女性」の自殺者増。女性の自殺の背景には、経済生活問題や勤務問題、DV被害、育児の悩み、介護疲れ、精神疾患等様々な問題が潜んでいる。コロナ禍で人と接する機会や場が少なくなり、経済的にも不安定な生活を強いられる女性が増えている中で今後、女性の自殺リスクがさらに高まることが懸念。)

#### 4 自殺報道の影響と考えられる自殺の増加がみられる。

(若手有名俳優の自殺報道後、自殺者数が増加。「ウェルテル効果」)

#### 5 本年8月に、女子高校生の自殺者数が増加している。

(「休校明けの学校生活になじめない」「オンライン授業についていけない」「家族がステイホームで家族問題増加」等)

#### 6 自殺者数は、依然として女性よりも男性が多い。

(本年8月までの自殺者数は68%が男性。全体の3割超を40～60代の中老年男性)

#### 7 政府の各種支援策が自殺の増加を抑制している可能性がある。